

目指せ環境自治体！ 市民に議会を近づけよう!!

無所属 市民派 環境派

鹿児島市議会議員無所属・市民ネット

# のぐち英一郎

市民ネット ニュース 2012春号

鹿児島から「みどり」の政治を！

鹿児島市山下町11-1 電話 099-806-0565

**当事者と向き合うからこそ課題見える**

現場でないと分からないことがあります。そして、ひとつの現場を深く掘り下げると様々な問題が関連していることが分かります。ホームレス問題、自殺、孤独死、どの問題もつながっていると思います。ホームレス支援という現場で困窮する当事者と向かい合い、支援を続けてきた野口さんだからこそ見えてくる課題があり、野口さんだからこそできる市政があるはず。解決すべき課題が多い今だからこそ、がんばれ、野口さん!

NPO法人かごしまホームレス生活者支えあう会 (鹿児島市) 芝田 淳

**これからの鹿児島を野口氏とともに**

東日本大震災を契機に持続可能な社会の必要性がより見直されています。中央集権的政治によってもたらされた問題に取り組み、自給や循環といったこれからの社会を構築する上で、地方政治の役割は非常に重要です。特に鹿児島ではエネルギーや一次産業に問題を抱え、民意を反映した解決への取り組みが急務です。野口氏は政治家としても個人としてもそうした問題に正面から向き合い、自らが汗しながら取り組んでいく。氏のような心ある政治家と共にこれからの鹿児島を創りたいと思います。

鹿児島大学大学院・農学研究所 (鹿児島市) 佐藤政宗

**社会問題の本質見据え活動**

原発超過密国家世界一の日本です。これに疑問を抱く人がどれだけの数でしょうか。TPPへの参加と、農業と漁業と人とのふれあいがあると云間に失われていくのに私たちは安心を寄せるでしょうか。なぜ孤独死が、自殺者が増えていくばかりなのでしょう。テレビが奨励する消費と一過性の流行で知性と生命力をも消費している私たちは貧しい。これ以上自然を壊し私たちを孤立させる開発をしないでください。希望を蹂躪しないでください。社会問題の本質を見据え身体をばって戦っているのぐち英一郎さんを心から応援します。

(鹿児島市) 西村亜希子

**地域からの情報発信 これからも**

のぐち英一郎君を強く応援します。今地方自治が、国や県との関係において大きく変わろうとしています。地方に暮らす私たちがこれからは豊かで平和に暮らすために、これまで以上に環境問題、地域振興、食の安全、教育改革、そして何よりも住民の安心安全が問われています。真に行政改革を担う、長期展望をもって行動することができる、地域からの情報発信と様々な市民団体と連携することができるのは、若い世代を代表する野口君です。

西之表市議会議員・馬毛島の自然を守る会事務局 (種子島) 長野ひろみ

**自然を尊く思う声 届けたい**

私は、農業を営んでいます。農業を取り巻く環境も様々ですが、私が最も危惧していることは、安心して食べられる農産物を栽培できる環境を、私の子供達の世代に残すことができるかということです。誰もが豊かな自然が尊いことはわかっていても、現実として自然環境は破壊され続けています。自然を尊く思う人々の声が行政に届いていないのなら、是非届けてほしいです。皆でできる事から自然を守り、子供たちを守り育てる政策をお願いします。

農業 (出水市) 澤田泰之

**生きて当たり前の実現を**

昨年3月に起きた東日本大震災、原発事故による放射能汚染の衝撃が列島を襲い、未曾有の危機が巻き起こっています。子どもや社会的に弱い人が切り捨てられてよいのでしょうか。私たちの「希望」とは、過去の経済大国としての華やかな栄光にあるのではなく、今の瞬間を生きている姿そのものにあります。すべての人が「何とかなる社会」の主人公として、大震災を教訓に、政治や暮らしをあらためて問い直し、生きて当たり前の生活ができる社会をつくっていく…そんな政治を実現してほしいものです。

鹿児島県児童クラブ連絡協議会事務局長 (霧島市) 続 博治

**自分たちの「政治」を取りもどす**

NPOやNGO、社会運動を僕はやっているのですが、そこで必ず突き当たるのが「政治」という壁です。どんなに派手なキャンペーンや抗議活動をやろうとも、結局は議会制民主主義の世界で決められてしまうのが現実(僕は直接民主主義に恋い焦がれています)。社会運動で同じ志を持った野口さんであれば応援したいのです。誰かにおまかせする「政治」ではなく、自分たちの「政治」を取りもどすために。

イラストレーター (福岡県) いのうえしんぢ

**「ぶれずに正論」古い政治はもういらない**

28歳で初当選してから、早12年。地盤もない、看板もない、かばんもない中で実績をしっかりと積んでこられたのは、常に現場に身を置いて、たくさんの住民の声を耳を傾け続けてきたからだだと思います。そして、野口さんだからこそ、ぶれることなく正論を言い続けることもできました。古い政党政治は、もういりません。新しい政治が必要です。野口さんの活躍は福岡へも伝わってきています。野口さんのますますのご活躍を期待しています!

みどり福岡代表 (福岡県) 本河知明

**これからの地方議員の資質持つ人**

見ザル聞かザル言わザル…そんな大人たちでは子どもの未来が守れない時代になってしまった。大人たちに混ざっていても貴族も無いしスーツも似合わない、一向に議員らしくない野口氏。それでも彼は、これからの地方議員に必要な資質をすべて持っています。見て聞いて、もの申して、そして市民のみんなや子どもたちと未来へ歩む! そんな野口氏を、地方議員の一人として心から応援しています。

—西海のプラインス五島列島より  
新上五島町議会議員 (長崎県) うたのあや

政策提言が全国の仲間から寄せられています。

**「ハッキリ発言し行動」貴重な人材**

国会の姿を見ていると、政治というものを考えさせられる。それは自治体も同じで、自分の利益、そうでなければ、自分を支援する団体に向けて活動をする議員ばかりだ。「市民の声を市政に」「市民の立場で」とは、言葉だけで、むなしくてならない。でも、のぐち英一郎さんは違う。原発という自治体の一番ホットな課題にハッキリ発言をし、行動をする。ともに活動をしてきたが、貴重な人材です。期待し、注目し、応援をしたい。

反原発自治体議員・市民連盟共同代表 (東京都) 布施西也

**全国とつながり、地域に根ざす**

この人がとにかくマメに動き、地域の人のために役に立ってきたということは多くの僕より皆さんの方がよくご存知だと思いますので、僕からは「のぐち英一郎」さんが世界大の視点でも未来を見て、日本各地で頑張る連中ともつながって、しかも地域に根をおろして行動している人だ、ということを追加で保証します。

放射能ホットスポットになってしまった茨城県守谷市在住。  
有機農業生産法人スタッフ・緑の政治を実現する仲間 (茨城県) 小林一朗

**対話こそが政治のはじまりで、行き着く先**

私は、世界の方々へ向かい、たくさんの人に出会う中で、ひとつのことを身を持って学びました。目の前のその人が、対話のために時間を割かないのであれば、その人はまだ、信頼に足りません。野口氏は、いつでも対話を重んじ、さらには強いところ、実行力を兼ね備えた稀有な人物です。もしあなたが、何かに困ったのなら、ぜひ野口氏に相談してください。氏のように、誰にもいつでも分け隔てなく接してくれる政治家って、とても素敵。そうやって、対話を重ねて行くことが、政治のはじまりであり行き着く先なのかな、と思います。

旅人・デザイナー (世界) 小崎悠太

**イベントのご案内** のぐちが主催・参加予定のイベントです。お気軽にご参加ください!!

**「のぐち英一郎と語ろう会」**  
▶2月18日(土) 14:00~16:00  
▶かごしま県民交流センター  
これまでののぐちが現場で見て感じたこと、議会での質問、追及の様子を話します。環境、エネルギー、弱者支援、農業など「持続可能な社会」づくりの仲間とのディスカッションも行います。

**「元スイス大使 村田光平さん講演会」**  
(原子力と日本病 著者)  
▶2月26日(日) 13:00~15:30  
▶鹿児島大学 稲盛会館 (500円)  
※第2部のパネル討議にのぐちが参加します

**「3.11 さよなら原発かごしまパレード」**  
▶3月11日(日) 10:00~17:00  
▶中央駅東口広場(若き薩摩の群像前)

**「アースデイかごしま 2012」**  
▶4月21日(土) 22日(日)  
▶鹿児島中央公園(テンパーク) 予定

**甲突川ウォッチング**  
毎週第2日曜日開催中  
2/12 花尾山登山  
3/4 三重嶺縦走  
4/8 新川・西之谷ダム …など毎月開催

**ボランティア大募集!!**  
完全無所属ののぐち英一郎は、いっしょに動いてくれるスタッフを募集中。イベントなどを通していっしょに「まちづくり」しませんか?

鹿児島市議会議員 無所属

# 市民ネット のぐち英一郎

★フェイスブックやっています! メルマガ好評配信中!

このニュースに関するすべてのお問い合わせ  
〒892-0811 鹿児島市山下町11-1  
電話 / 099-806-0565  
携帯 / 090-5489-4806  
メール eiichiro@entaku.info  
ホームページ http://entaku.info/

再生紙



**2010年7月 菅総理に脱原発を直訴**

2010年7月、川内原発と海の破壊の問題を、菅総理に直訴しました。3.11の大震災によって、原子力発電を取り巻く状況には、根本的な変化が求められています。その変化は、「どこかの誰かがいつの間にか進めてくれる」ものではありません。地域に暮らす私たち一人ひとりが当事者であり主権者です。今を生きながら未来の子どもたちを思えば、脱原発と核廃絶は必然です。

私は3.11以前から、原発と無縁の社会に向け、このニュース紙上でも毎回「脱原発」を取り上げてきました。事故や定期検査などにより、すべての原発が停止する2012年春。そのまま夏を過ごすことができたならば、「原発が完全に止まっても、電気にまったく困らない」という事実を、鹿児島に暮らす私たちも体感し、記憶するでしょう。

**無所属 11年目にして初めての決算特別委員に**

2010年秋には、無所属11年目にして初めての決算特別委員となり、全分野にわたる決算審査に臨みました。「安全で安心な食べ物」の「もともになるもの」決算特別委の審査で印象に残るのは、家畜の飼料自給(地産地消)にかかる質疑です。黒豚や黒牛を筆頭に畜産を誇る鹿児島ですが、その家畜の食べ物はどうなる状況でしょうか。英語に、「You are what you eat」(あなたとは、あなたが食べているものそのもの)という表現があります。鹿児島が誇る畜産のいのちを形づくる食べ物は、安全で安心できるものなのでしょうか?

決算委員会の家畜の飼料自給を投げかけたとき、私の念頭にあったのは「地産地消と狂牛病の抑制」でした。その時点では行政側の取り組みは皆無でしたが、11年度予算で、早速試行が始まりました(郡山で現在進行中)。さらに昨年は、福島第一原発の深刻な事故による、牛肉や牛乳の出荷制限や流通が問題となりました。グローバルな流通は、常に諸刃の剣であり、その流れと影響は不可避です。

だからこそ、根っこにしっかりとした考えを持ち、判断や選択を重ねる必要があります。

**炊き出しや自立支援を通じ、深刻さを増すホームレス問題を目の当たりに**

2008年にリーマンショックが起り世界中に波及しました。一見、遠い世界のこのように思いますが、派遣切りや若年層ホームレスの増加など私たちの身近な問題につながっているのです。中央公園での炊き出しや毎月の夜回り、自立支援の現場で、その状況を目の当たりにしています。広く国内を見れば、3.11以前から、14年連続で年間の自殺者が3万人を超え、生活保護の受給者数も、過去最高の206万人超と、第2次大戦後の混乱期と同様です。これらは、社会の仕組みが変わらないまま、時代の激変についていけないからではないのでしょうか。

**問われる社会の根本と暮らしのあり方**

政治だけが暮らしや社会をつくるわけではありません。しかし、混迷の度合いが深まれば深まるほど、政治や公的な存在の者の言動が果たすべき役割は、増していくのではないのでしょうか。そうした観点から考えると、3.11以前から、私たち大人には哲学が求められていたのだと思います。「住民自治」「当事者主権」「自給的な暮らし」。社会の根本と暮らしの在り方が問われている3.11以降、価値観や暮らし方のキーワードとして、私はこのような言葉を思い浮かべています。

**持続可能な福祉社会の実現へ**

3.11は、「天災と原発」という大きな課題を私たちに突き付けました。福島第一原発の核燃料の現状は、今なお誰にもわかりません。収束どころではないのです。目下の切実な問題は、汚染された瓦礫の処理、選ぶことのできない給食食材の安全確保、公園や校庭・土や草・樹木・森林・川や海への放射性物質の拡散、食料品の汚染などによる日常生活の喪失、そして被曝回避疎開者の住居確保など、多岐にわたります。ひとつずつ着実に、正面から取り組んでいきます。いっしょに「原発のない持続可能な福祉社会の実現」へ向けて今こそ行動しましょう。

**いっしょに鹿児島をデザインしませんか**  
暮らしやすいわかまちづくりはまず行動から。完全無所属ののぐち英一郎とともに、鹿児島のこと、未来のこと話しませんか。



# これまで12年の実績

「ぶれずに、ひかずに、ひるまずに」、常に現場へ足を運び、調査成果を議会にぶつけてきました!

## 1. 元気な自然環境がまちづくりの基本

ゆたかな環境なくして経済の存続なし! ふるさと鹿児島県の美しい自然環境を守り育てます。

- 市街地における防災行政無線の屋外スピーカー新規設置問題  
3.11の経験をもとに「暴風雨・地震・津波・火山噴火を想定した住宅街で機能するのか」という実地試験と、代替プランとしての戸別受信機整備を提案。
- 名山堀一帯の保全と活用  
昔から残る風情のある景観を守りながら、元気のいい地域にすることを要望。
- 雨水タンク設置助成の周知拡充  
都市型水害を抑制し、リスクとコストを小規模分散で低減するための取り組み。現在、5,400件設置。
- 畜産飼料の地産地消  
狂牛病や鳥インフルなどのリスク低減のため、決算委員会で提言。平成23年度から郡山で試験運用中。

## 2. 共生と大きな福祉

安心して働ける場を! 充実した子育ての環境を! 困った時にひとりにしません。ともに生きていきましょう。

- 生活保護等の市役所申請に同行  
市民の方の暮らしの中での困り事に、市役所の担当窓口まで同行および説明の補助。対話と交渉を重ね、改善や解決につなげることも多数。
- ホームレス生活者の支援  
“NPO法人かごしまホームレス生活者支えあう会”の理事としての経験をもとに行政に提言。平成20年4月から“ホームレス巡回事業”がスタート。その結果、平成23年10月末までに、延べ59回巡回、うち5人に対して生活保護が適用。精神科への通院や、ハローワークへの同行も実施。
- 里親制度の広報拡充  
多くの子どもが家庭的な環境で育つ機会を得られるよう、まずは里親制度を周知させることを提言。
- 被曝回避疎開者、自主避難者の支援  
原発事故後の疎開者、自主避難者のために市営住宅要件緩和を提言。
- 市営バスの嘱託職員の方々の雇用問題  
交通事業経営健全化計画に伴う市営バス嘱託職員の方々への説明経過と対応、雇用の見通しの表記時期と方法など、労働環境について質し、改善を申し入れ。
- 夜間保育の充実  
実態調査の公表経過と近年の現場の課題認識について質問。児童健診の状況把握、暖房費や助成補助の使途チェック体制、保護者への情報提供を申し入れ。
- 児童クラブについて  
いただいたご相談からクラブ事業の拡充を念頭に、自主性を重んじた計画へ改善を申し入れ。「現在までの活動が一切制限されるものではない」との公式回答を得る。
- 車椅子利用者が乗降しやすい公共交通  
車椅子利用者が単独で利用できるバス停・電停についての現状把握と、設置目標年度の設定確認、環境整備における提案。

### 3.11であらためて考えさせられたこと

3.11の惨状には、茫然となりました。災害時に人的被害を出さないためには、何をしても避難することが第一です。さらに、高齢者や子ども、障がいを持つ方など「災害弱者の確実な避難」には、普段からの体制づくり、高い意識付けが重要だと考えます。一旦避難した後は「衣食住提供と寒暖対策」が必要となります。スピード感を持って、支援できるか、これも平常からの準備が必要となってきます。

今回の震災では、原発施設の崩壊という、あってはならない事態も招きました。原発超過密国の日本で、また、川内原発を持つ鹿児島県においては特に「もはや放射能を日常的に意識せざるを得ない時代に入ってしまったのだな」と考えざるを得ません。

平和に暮らすことは、安全で安心の上になり立つものです。そのためには過剰なほどに原発に頼る政策を転換して、「エネルギーを根っから考え直し、作り直す必要があるな」という思いをさらに強くしました。

持続可能な福祉社会は、一朝一夕にはできるものではないでしょう。しかし、のぐちは、その実現のために、一歩ずつ、しかし確実に歩を進めて行きたいと考えます。そのために今すべきことは何か。皆さんときちんと考えていきたいと思います。

「過去22年取り組んできた、『脱原発社会の構築』をよりいっそう強くすすめてはならない」

得ない時代に入ってしまったのだな」と考えざるを得ません。

平和に暮らすことは、安全で安心の上になり立つものです。そのためには過剰なほどに原発に頼る政策を転換して、「エネルギーを根っから考え直し、作り直す必要があるな」という思いをさらに強くしました。

持続可能な福祉社会は、一朝一夕にはできるものではないでしょう。しかし、のぐちは、その実現のために、一歩ずつ、しかし確実に歩を進めて行きたいと考えます。そのために今すべきことは何か。皆さんときちんと考えていきたいと思います。

「過去22年取り組んできた、『脱原発社会の構築』をよりいっそう強くすすめてはならない」

## 3. 議会と行政は市民とともに

公平で公正な社会の実現を目指して一。税金を有効に使います。

- 議員定数の削減条例案を議員提案  
“市議会の規模”と“議員の待遇”が、時代状況とずれているという実感から提案(議案は否決)。
- 公共事業の妥当性  
天文館シネマパラダイスの見直しから、“ハコモノ事業”になりかねない懸念から、議会内外で計画性と、その精度を再三指摘。結果、事業予算を6億円削減。また、広告用飛行船の中止を求め、1000万円を削減。
- 人工島予算の見直し  
予算を厳しくチェックし直すことで緑地整備の試算16億6千万円を議会に引き出し、公共事業の中身の転換を提言。
- 自転車のリサイクルフェアの抜本的な見直し  
リサイクルフェアのありかたについて問題提起。民業圧迫にならない事業の改善を求める。
- 天文館公園再整備のありかた  
現在の使用状況、また、全面芝生化した場合の球技等スポーツ愛好者からの反響、心のふるさととしての天文館公園について質問。再整備の妥当性について問題提起。
- ごみの持ち取り禁止条例と生活困窮  
アルミ缶を集めて生計をたてている方々のご意見を聴き取り。条例は、トラックなどで乗り付ける業者に対するものであり、条例の一律適用が、生活困窮者を追い込む懸念から、再三にわたり議会および役所担当者と話し合いを重ね、事例ごとの慎重な対応を求める。
- 生見ビーチハウスのカヤック利用  
所有する10艇ものシーカヤックの活用期間は夏だけ。親子乗り方教室の開催など、税金財産を有効に生かせるよう教育委員会に提言。



## 4. 平和な暮らし

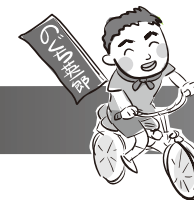
誰もが安心して文化的な暮らしを享受できる“かごしま”をつくります。

- 多言語での情報提供  
新型インフルや火山情報など、緊急性の高い情報は命綱となることから、市役所ホームページの、多言語での情報提供を提言。即時反映が実現。
- 多様な国籍の方々を受け入れるまちづくり  
鹿児島在住のイスラム教徒の方々や、多国籍の留学生の生活相談。留学生や在住外国人の方々との多文化共生社会に向けて「多国籍合宿」で分科会開催。
- お互いを尊重し、支えあう社会づくり  
男女共同参画フェスティバルに毎回のワークショップ参加。
- 身近にアートを感じられるまちづくり  
いのちのまつり、オーガニックフェスタ、地球環境をテーマにしたイベント、ドキュメンタリー映画自主上映主催、芝居・ダンス・音楽イベントの主催や参画。



# これからの目標

これからも市民のために走り続けます



## 1. かごしまの環境を再認識 ～災害対策総点検と人に自然にやさしいまちへ～

2011年3月11日の大震災は、原発のある地域のもろさをあらわにしました。鹿児島県でも、市役所のあたりは小さな津波で冠水するといわれ、桜島も100年に一度の大噴火が危ぶまれています。

この状況下で川内原発を抱える鹿児島県は、安心して暮らせる住環境とはいえません。原発を停止させ、自然とも折り合いをつける風水害対策を講じる必要があります。

- 桜島大噴火を前提に、災害弱者の援護プランなど、細部にも手を抜かない避難訓練
- 川内原発停止への提言と働きかけ(鹿児島市独自の原発防災計画づくり)
- エネルギーと食べ物の地産地消
- 森林と河川の維持保全

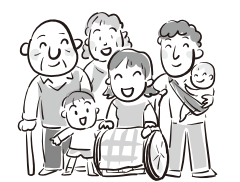


## 2. よりよい税金の使いみちへ ～公共事業の中身、市民目線で厳しくチェック!～

無所属の のぐちに大きな働きかけは難しいですが、その代わりに市民の暮らしにより近い、無駄なお金をなくす「小さな見直し」は得意です。

戦後の発展で整備された日本のインフラ(上下水道・市営住宅など、暮らしに必要な公共設備)は、老朽化を迎え、事細かに見直し時期が来ています。そういった「補修」の事業は、誰かが大きく儲かるものではありませんが、のぐちは特定の人々が「大きく儲かる」から、多くの方が「小さく儲かる」への転換を求めます。これからは「小さいけれど、みんなに必要なお金が回る使われ方」へ、しっかり転換していきましょう。

- 議員の定数、給料を厳しくスリム化
- 特定の人々が「大きく儲かる」から、多くの方が「小さく儲かる」へ
- 税金の使いみちを厳しくチェック
- 人工島より市場統合、市電の延伸を



## 3. 手あつい街に ～困ったときにひとりにしません～

どんなときでも、誰とでも。よろず相談12年。いじめ、DV、引きこもり、一人暮らしのお年寄り、生活保護、子育ての孤立、景気の低迷、仕事の不安、ホームレス生活状況。のぐちは、いつも現場を歩き、じかに声を聞いてきました。12年の議員生活で直接何つたご相談は600件以上になりました。本当につらいとき、相談できる相手が1人でもいることが、心底大事なことで感じています。

- どこまでも現場第一主義。お困りの声を直接聞きます
- 議員やNPO活動を通して課題を改善、解決



## 4. 平和と文化 ～平和な暮らしをこれからも～

お互いの違いを認めあい、共存できる社会を のぐちと一緒に作りませんか。憲法9条(争わないこと)・25条(安らぎの約束)を実感できるまちを。いつまでも続く、平和なまちを一。

そして平和のもとに、豊かな芸術や文化は育まれます。のぐちは「まちづくり」のために、映画やお芝居、音楽を楽しむイベントにも取り組んできました。鹿児島らしいイベントを通して、地域とまちを、暮らしを元気にします。

- 男女平等、子どもの人権、多文化共生、草の根外交、在住外国人の生活相談、南北問題の学習と支援
- 憲法9条(争わないこと)・25条(安らぎの約束)を実感できるまちを
- 鹿児島らしいイベントを通して地域とまちを、暮らしを元気に



かごしまの「のぐち」

「のぐち、教壇に立つ」  
2012年1月6日、鹿児島国際大学にて講義。  
「今をいかに生きるか」を語りました。



「のぐち、映画に出る」  
(といってもエキストラ...)  
2010年秋、是枝裕和監督の映画「奇跡」に奇跡の出演!

「のぐち、句会で大会賞をとる」  
2011年秋、U-39俳句大会で、炊き出しをテーマにした自身の句が大会賞を受賞しました。気持ちを含めて詠みました!

「のぐち、会長になる」  
2011年春から、子どもの通う坂元小学校PTAの会長になりました。夢多き子どもたちとともに過ごせる時間はうれしいものです。



「のぐち、本を売るのを手伝う」  
2008年秋、ホームレス自立支援雑誌「ビッグイシュー」の鹿児島版販売をサポート開始。ぜひ購読ください!



「のぐち、うなぎを捕まえる」  
2011年夏、天然ウナギを捕獲! おいしくいただき、明日への活力になりました。

新米の炊きだし  
大振すび  
英一朗に